

2018年5月30日～31日

於 全電通労働会館

第48回衆議院議員選挙「アンケート調査」結果を踏まえた今後の取り組みについて

第48回衆議院議員選挙「アンケート調査」結果をふまえ、組織内候補『吉川さおり』議員の再選に向けた取り組みを強化することとする。

1. 調査結果の主な特徴点

(1) 回収数等について

退職者の会会員は、3,000人に配布した結果、1,261人（回収率42.0%）となった。性別では、男性72.8%、女性27.0%であり、年齢層別では、65歳～79歳までの回答率が77%であった。現役組合員では12,174人を対象者に配布した結果、11,334人（回収率93.1%）である。退職者と現役では、回収方法の違いによって回収率に大きな相違がある。この点がデータにどう影響しているかであるが、一定のバイアスはあるが、大きな傾向に変化は無いと判断する。

(2) 投票率

期日前・不在者投票を含め退職者は94.3%の投票率。現役は、79.1%であり、選挙全体の53.7%と比較し、高い投票率となっているが、やはり若年層の投票率は低く、特に24歳以下での「投票に行かなかった」が、男性46.2%、女性50.2%との結果である。

(3) 投票した候補者の所属政党

選挙区において、立憲民主党（32.8%）、希望の党（30.1%）の候補者に対しての投票が多くなっている。比例区においても立憲民主党（61.2%）、希望の党（16.7%）が多くなっている。現役は、選挙区、比例区においても立憲民主党、自民党、希望の党の順となっている。

(4) 投票の際に参考にした情報

- ① 「もともと決まっていた」が最も多いが、次に「NTT労組新聞」や「組合のビラ等」を参考にした比率が多い。
- ② 目にとまった組合発行の宣伝物として、「NTT労組新聞」や「組合のビラ等」が高い。

③ 退職者の会からの働きかけは、27.8%にとどまっている。

(5) 今後の政治の見通し

全年齢層において「今までとあまり変わらない」との回答が5割の一方、「良い方向に変化していく」との回答が3割もある。

(6) これからの政治に最も期待する取り組み

退職者は、年金 19.3%、高齢者福祉・介護 15.5%、憲法問題 9.2%、医療 5.6%の順になっている。現役は、年金 18.4%、税金 8.7%、景気対策 8.2%、高齢者福祉・介護 7.6%の順となっている。退職者、現役とも、社会保障・福祉分野や生活関連政策への関心が高い。また、退職者の関心の中に憲法問題が相対的に高い比率を示していることにも留意したい。

(7) 支持政党

立憲民主党が 56.2%と高く、民進党 6.2%、希望の党 5.5%と低率である。支持政党なしは 15.9%となっているが、これは前回の参議院選挙時よりも3%高くなっている。

(8) 「吉川さおり」の知名度

「吉川さおり」の考え方や政策を知っているのは、24.4%、名前を知っている 63%。合計 87.4%であり、前回調査 (88.2%) とほぼ同様である。また、この1年間に会ったり、話を聞いたが 5%。この1年間はないが以前に会ったが 21.2%である。

(9) 今回の選挙結果

- ① 選挙結果について退職者と現役の中高年層は、「野党が議席をもっと取った方がよい」との回答が80%前後であったのに対し、現役の若年層においては、「ちょうど良かった」との回答が30%前後となっている。
- ② 民進党と希望の党の合流および公認問題については、全年齢層で「よくなかった」との回答が50%以上と比較的高い。
- ③ 立憲民主党の設立については、「良かった・どちらかといえば良かった」が退職者は、77.3%、現役は48.1%との回答であった。

3. アンケート調査結果における認識等

- (1) 今回の選挙は、突然の解散と民進党が選挙直前に分裂し、小選挙区と比例区が一致しないことに対する会員の不満などに支部協等の役員が対応に苦慮し、結果として「会員への働きかけ」が困難であった。

- (2) また、「支持政党なし」層が前回より増加したのは民進党分裂の影響と考えられる
- (3) 今回の投票アンケート調査の結果から、「吉川さおり」の知名度は高いものの、「吉川さおり」に会ったことがない会員は75%以上であり、今後は「吉川さおり」とより多くの会員等との接点拡大に努める必要がある。
- (4) 一方、投票率を見ると、選挙区においては、立憲民主党 32.8%、希望の党 30.1%の合計 62.9%。比例区では、立憲民主党 61.2%、希望の党 16.7%の合計 77.9%であり、厳しい状況下にも関わらず組織推薦候補に対応していただいていることが想定できる。あらためて、会員・家族の皆様のご協力と各支部協、地区協等の役員の皆様のご尽力に敬意を表したい。

4. 投票アンケート調査結果を踏まえた情勢認識と今後に向けた取り組みについて

- (1) 安倍政権の支持率は低迷しているものの、自民党支持率は低下を見せていない。これに反して、立憲民主党への支持率は、第二政党の地位は維持しているものの、自・公の与党に大きく水をあけられている。野党の分散状況は、今日的には大きく変化しえないものと想定せざるを得ない。「吉川さおり」が立候補する立憲民主党の来夏参議院選挙の比例得票数は、より厳しいものと見なければならない。これらのことから、前回参議院議員選挙の「石橋票」17万を大きく超える票の上積みは必須といえる。
- (2) 一方、退職者の会「吉川さおり」の知名度は、87.4%で現役を上回っており、この一年間で「吉川さおり」に会ったという人も退職者の5%、およそ6000人に換算できる。このことは、在住の退職者の条件からして大きな数字。ご協力いただいている支部協、地区協等、会員の皆様に敬意と感謝を表したい。また、全国を飛び回って対応している吉川さんにもあらためて敬意を表したい。
- (3) しかし、三期目に挑戦する今次選挙。過去の取り組みの積み上げは大事だが、それをベースにするだけでは今日的な情勢からも必勝は期しえない。前回(2016年)の参議院議員選挙では、「候補者名を書いた」が65.1%。「政党名を書いた」が30.2%と政党名票も多い。「政党名を書いた」会員は、「政党名でも候補者は当選すると思った」が40%と多い。来夏の参議院議員選挙では、「候補者名を書く」ことを会員・家族等に徹底する

取り組みも重要である。

- (4) したがって、初心に帰って、会員・家族への支持の浸透、確認、友人・知人への支持の拡大、支部協、地区協などの取り組みの組織的掌握、ポスター、リーフ、パンフ等の活用、「吉川さおり」との接点拡大のための企画など組織一丸となった取り組みが必要。

残された期間を最大限有効活用するための準備に全力を挙げることにする。

以上